

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

平成 31 年 3 月 6 日

【適正利用・エコツーリズム WG に関する特記事項】

本 WG は、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で 2010 年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催している。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」である。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
- 持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしている。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WG として検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断し、平成 30 年度から適正利用・エコツーリズム WG の単独開催を復活している。

1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、現在取組が進められている 4 件の状況は以下のとおりである。また、過去の提案も含めた検討状況は別紙 1 のとおりである。

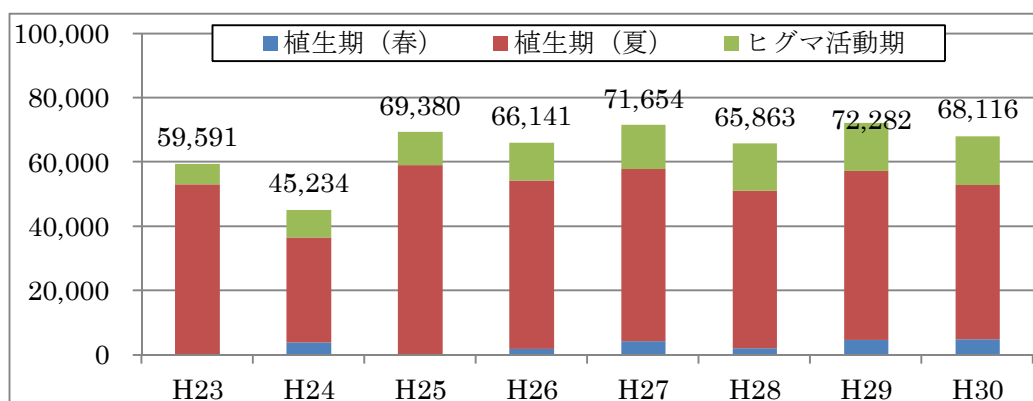
案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	<p>半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーと位置づけて試行している。平成 29 年度のツアー参加者は 0 人であったが、平成 30 年度は計 68 人（ツアー催行 8 回）が参加した。また、地域内の合意形成及び社会教育を目的に羅臼町民を 2 名、ツアーに招待している。</p> <p>参加者が増加した一方、赤岩地区でコンブ漁が行われなくなっている事情もあり、ツアーの経営的持続可能性や地域としてのツアー実施の意味について回答を求める。</p>
外国人旅行者向け情報発信の強化	知床財団	<p>ルールを意識して知床を楽しむために、外国人に向けた情報発信の強化を目的とした各種事業を行っている。平成 30 年度は知床情報玉手箱の情報更新や Facebook によるヒグマ情報の</p>

続き		<p>公式的発信など、これまでの事業を継続するとともに、新たに「知床のヒグマ」サイトを開設した。</p> <p>なお、提案当初予定していた事業については一定の成果を上げたことから、今後は、各団体が連携をとりながら外国人旅行者向け情報発信に継続的に取り組んでいくこととなり、部会は解散する予定。</p>
厳冬期の知床五湖エコツアー事業	斜里町観光協会	<p>冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施している。本年度は平成31年1月22日から3月22日までを予定。平成31年2月13日現在、計1,240名（前年度同時期比116%）が参加している。</p> <p>利用コントロールが特に必要な時期・場所であるため、参加者増加に伴う今後の利用コントロールの方法、運営や資金計画、等検討を進める。</p>
知床観音岩 COAST WAY フットパスコース（仮）	知床羅臼フットパスクラブ	<p>遺産地域で行われている漁業現場の見学と同地域での散策を求めて、相泊から観音岩までの徒歩利用者が増えてきていることから、同区間のフットパス利用について検討している。</p> <p>場所柄、フットパスとしての利用が適しているか、語のような利用者を想定するか、利用に対する管理をどのように行うかが、部会での検討課題となっている。</p>

2. 個別地域における取り組み状況と課題

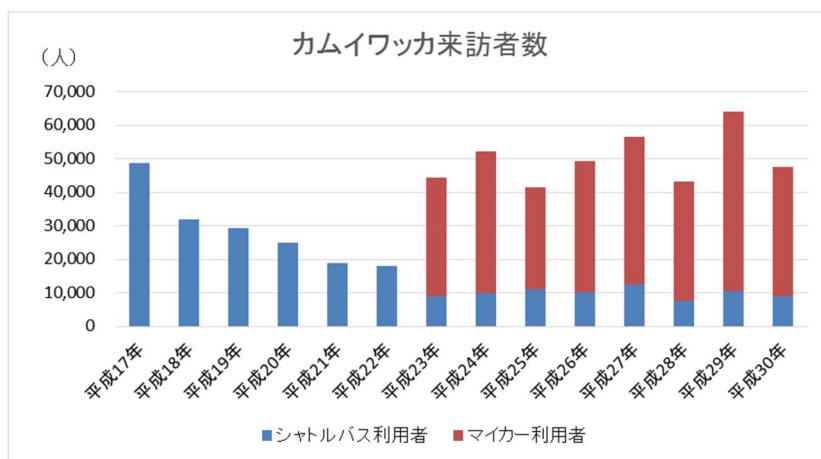
○知床五湖における利用調整地区制度の運用

高架木道と地上遊歩道（ヒグマ活動期及び植生保護期）を運用した。平成30年度の地上遊歩道立入者数は68,116人（前年比94%）であった。地上遊歩道の更なる利用の安定化や質の高い自然体験を提供するため、開園～7月をヒグマ活動期、8月～閉園を植生保護期とすることを検討している。



○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成30年は8月1日～25日の25日間でマイカー規制を実施した。平成30年度の湯の滝の利用者数はマイカー利用者が減少（9,090人（前年10,495人））し、47,536人（前年比74%）であった。平成31年も8月1日～25日の25日間でマイカー規制を実施する。



○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、知床海鳥WEEKや海鳥トーク、自然センターでの企画展等の各種イベントや海鳥のモニタリングを実施。海域観光の充実や収益の環境保全への還元、野生動物と人との適正な関係の周知等を目的として知床ウトロ海のハンドブックを発行しているが、平成30年度は胆振地方地震の影響もあり、400部程度（前年度2,800部程度）の売り上げであった。

3. 適正利用・エコツーリズムWGでの議論

適正利用・エコツーリズムWGでは主に以下について議論した。

○長期モニタリングの改定について

- ・これまでの利用者数データのみでのモニタリングでは利用が適正かどうか判断できないことから、利用者データに加え、新たに「知床エコツーリズム戦略に基づいて管理や利用が行われているか」についてモニタリングすることとした（別紙2参照）。
- ・長期モニタリングは検討会議ではなくエコツーリズムWGが担当し、エコツーリズムWG委員が評価を行うこととした。

○適正利用・エコツーリズム検討会議の今後のビジョンについて

- ・知床エコツーリズム戦略の運用開始から5年がたったことから、座長からの提案で今後の進め方や目指す方向について議論した。
- ・提案制度については、提案が認証されたものに対して何かメリット（PR等）を作ることをしなければ新たな提案は増えてこないのではという意見があった。
- ・エコツーリズム振興については、観光関係部門で新たな方向性を作ってもよいのではないかとの

意見があった。

3. 主な検討事項や今後の予定

- ・第1回の検討が会議で、ヒグマの人慣れや観光客との接近についての重大なりクスの懸念が提案され、検討会議として、過去のヒグマ対策や政策への批判の不問を条件に、新たな場の設置による、①ヒグマと否との関係に関する将来目標の合意、②それに対する対策の検討が合意された。その後の展開につき科学委員会でも科学的、政策的見地から議論が必要である。
- ・既存ルールの見直しを含めた議論・検討を推進するため、知床国立公園利用のあり方懇談会を平成29年度及び平成30年度に実施し、知床半島の利用に関する地元意見をまとめた。平成31年度以降は、平成29～30年度の懇談会で聴取した地元意見を踏まえ、平成33年度までを目指して、利用のルール（知床世界自然遺産管理計画、知床エコツーリズム戦略、利用の心得など）の内容更新及び再編を検討する。
- ・地域外の資源利用者とのコミュニケーションをとるため、地域外の観光専門家の参加が平成29年度の第1回の会議で合意された。平成30年度から北海道運輸局がオブザーバー参加している。今後は、運輸局と連携し、民間関係者も含めて知床の適正な利用について検討する予定。
- ・平成31年度は適正利用・エコツーリズムWG・検討会議を2回開催予定。